タイトル　「講演」
　講演者　　川島　高之
　　ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン理事
　　株式会社Ｋ＆Ｐａｒｔｎｅｒｓ代表取締役社長

講演テーマ　「我が子の力を信じよう」～幸せの源泉は自己決定～

１　はじめに
若者の意識に関する国際比較で日本は自分に自信のない若者が多いといったデータがある。自己肯定感を持っている子は、新しいことに取り組もうとするし失敗してもくじけずに繰り返しチャレンジする。一方、自己肯定感を十分に持てない子どもは、やる前から失敗するのではという不安が先立ってやろうとしない。子育てや教育の目標は「自立」。子どもが 20 年後、自分で考え行動できるようになること。
「子育て四訓」
　１.乳児は、しっかり肌を離すな
　２.幼児は、肌を離せ、手を離すな
　３.少年は、手を離せ、目を離すな
　４.青年は、目を離せ、心を離すな
２　子ども教育の現状は
学校、家庭、地域の三位一体の教育のはずだが、地域力が低下してきているのではないか。子供の教育にとって大切な斜めの関係（近所のおっちゃん、おばちゃん）と本番体験（実社会で役に立つこと、実社会への参画）が少なくなってきている。学校では予算の削減、教師が多忙すぎる等の実情があり結果的に、本来受けられる教育の質が下がる可能性がある。家庭は？子育て・教育に参画する父親が少ない、ストレスや孤立に悩む母親、偏差値競争の激化、親の過干渉、過保護、与え過ぎといった現状がある。
結果、意欲の低下、自信の喪失、自分で考え行動することが苦手、失敗を恐れすぎる等の若者が増加。子育ての目的は「子どもが自立した社会人になる」ため。また、自立するために重要なことは「自分のチカラで進もうとする意志と自分は価値がある存在なんだ」という自己肯定感を持てるようになること。しかし親は過干渉、すぐに手を貸す、そして否定的になりがちなもの。

３　このような時代、どうすればいいか
我が子のチカラを信じる。
我が子の得意分野や長所を知っている。
家庭内で何かしらの役割を担わせている。
テストや部活の結果に過剰な反応をしない。
服装や交友関係に、あれこれ指図しない。
意志、意向に対し否定から入ったりしない。
我が子がやるまで「待つ」覚悟を持つように努める。
我が子のチカラを信じたらチカラの源泉になることをできる限りやらせてあげよう。
チカラの源泉とはＷｉｌｌ、Ｃａｎ、Ｈｅｌｐ
Ｗｉｌｌ：好きなこと、やりたいこと
Ｃａｎ：得意なこと、好成績、長所
Ｈｅｌｐ：役に立つこと、貢献、承認
好きな事をやりたいだけやらせる。すると同じことを続ける資質が身につく。→Ｗｉｌｌ
得意を伸ばせる分野に労力を優先配分させる。すると自分を高めようとする力が身につく→Ｃａｎ
家庭や地域など社会の中で役割を持たせると貢献したいという欲求が高まっていく→Ｈｅｌｐ
Ｗｉｌｌ×Ｃａｎ=子どもの未来
子どもが「自己肯定感」と「未来志向」を持つためには掛け算のすゝめを。
我が子がＷｉｌｌ、Ｃａｎ、Ｈｅｌｐ３つ重なる天職をいつかはみつける。親はその伴走者。
理想が見つからなくてもプレッシャーを与えないほうがいい。とりあえず今の仕事を頑張らせると同時にＷｉｌｌは続けていい。Ｗｉｌｌはしょっちゅう変わってもいい。
４　最後に
親は我が子のチカラを信じ、機会をできる限り与える。そして我が子の自己決定を待ち、伴走と癒しの役割を担う。これで十分な気がします。